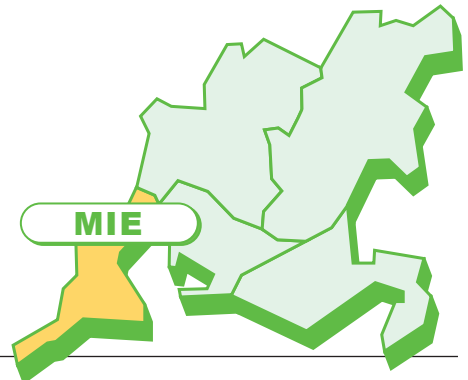


中部 だより

中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。



ナロウに乗ろう!～地域の魅力を運ぶ列車、軽便鉄道～

軽便鉄道とは

軽便鉄道とは、線路の幅が1,067mm未満の鉄道のことである。この狭い線路幅から「ナロウゲージ (narrow gauge)」とも呼ばれている。かつて、線路の幅を狭くすることで、鉄道の建設にかかる各種コストを抑える事が可能となる事から、軽便鉄道は明治時代より国内各地に普及したが、大量輸送能力に乏しいため、ほとんどが廃線となった。現在営業している鉄道は、三岐鉄道〔北勢線〕、四日市あすなろう鉄道〔内部・八王子線〕2015年4月より運行開始)、期間限定の観光路線としての黒部峡谷鉄道(トロッコ電車)の3つと、その希少性が高まっている。

1. 三岐鉄道(北勢線)

北勢線は、地元住民の重要な交通手段として歴史を刻んできたが、環境変化によって事業譲渡され、2003年4月からは三岐鉄道が運営している。また、桑名市、東員町、いなべ市、三岐鉄道の官民で「北勢線事業運営協議会」を構成し、北勢線の利用促進のため、ハロウィンやクリスマスの時期に列車に装飾をあしらう「ナロウイントレイン」「サンタ電車」といった各種イベントの開催など、鉄道そのものをPRする取り組みが行われている。その結果、通勤通学以外の利用者の増加に繋がり、2004年度には年間約192万人であった輸送人口は、2014年度には約244万人にまで増加した。

これらの取り組みにあたっては、地元住民によるボランティアガイドや、企業による北勢線を移動手段に活用した自主的なクリーン活動、自治体による財政支援などが背景にある。北勢線の原動力はまさしく地域の熱意であると言える。

2. 四日市あすなろう鉄道

内部・八王子線は、かつては近鉄線として運行

していたが、厳しい経営環境から、今後の輸送のあり方について検討が行われていた。そのような中、沿線地域からの強い要請があり、四日市市が施設・車両を所有し、同市と近鉄の出資による新会社「四日市あすなろう鉄道」が運行を担うという「公有民営方式」による存続が決まった。

現在では、さらなる収益性向上に向けて経営を後押ししようと、地元住民主導で、駅舎の塗り替えや、鉄道に関する歴史的資料の展示会など、あすなろう鉄道をPRするイベントが数多く企画・開催されている。

地域の想いを小さな車両に乗せ、あすなろう鉄道は新たなスタートを切った。



軽便鉄道から考える地方創生

今回、「軽便鉄道」取材する中で、多くの人々の鉄道存続や利用促進に向けた熱意や工夫を随所に感じた。地方創生を実現するためには企業、行政、地域住民などの関係者が協力して取り組みを推進する必要がある。地域の持つ特色を活かし、明るい未来が描けるよう、中経連も広域経済団体として中部圏のさらなる発展を目指して活動を推進していきたい。

(三重担当 中村 哲史)

取材協力: 三岐鉄道(株)、四日市あすなろう鉄道(株)、いなべ市